



天野進吾が視る。語る。今日のできごと。まつりごと。

愈々、 2月定例議会が始まります。

2月下旬から3月中旬までのロングランの議会を一般に当初予算議会とも呼んでおります。18年度の当初予算を審査する最も意義ある本会議です。

さて、18年度の本県の当初予算も近年の経済環境の低迷や国の三位一体改革等の潮流の中で、一層厳しい財政運営を余儀なくされて参りました。そこで、今月は本年度予算の概要と今日抱える県政の問題点について触れておきます。なお、3月6日の一般質問には私も登壇して知事にその所信を尋ねる予定です。

長い日本経済の低迷を反映して、本県の財政も平成11年度の1兆3520億円をピークに毎年遞減してまいりました。しかし国も見誤ったように、本県もその低迷がかくも長期化するとは予測しませんでした。それ故、700兆円と言われる国の膨大な借金と同様に本県もまた県債残高は年々増高し、昨年、遂に特例債を加えると2兆円を超える処となったのであります。

しかし、今年の一一般会計予算は1兆1403億円と7年振りに減額することなく前年度と同額を計上いたしました。この中で皆さんの関心ある施策をご紹介いたします。

予算を部局別に見たとき前年度に比べ健康福祉部の突出が目立ちます。具体的に紹介しますと、愈々、総合病院に待望の「PETセンター」が開設されます。これはこれまでの癌検診を大幅に前進させる医療機器ですが18億円を、またこども病院に、時代のニーズ

に於いて救急医療施設など47億円を、がんセンターの施設拡充に290億円を計上しました。また今年度より県は少子化問題に積極的に対処するために保育事業の多様化、児童手当など所得制限等の緩和など予算的にも大幅な前進をみた所であります。

処で、以前からその廃止を訴えてきました防災船「希望」が愈々本年をもって廃船となります。年間5億円もの赤字を抱えての事業、運輸省の実験船として建造、目的終了後に強引に本県に買い取られ、誠に迷惑至極でありました。

残念ながら余白に限りがありますので施策の概要を記すことはできませんが、正直、一日に元利合計4億3700万円返済は容易ではありません。石川県政が県民の期待に応えることのできるよう私も、今期最後の一年、県政、市政の羅針盤の役割を果してまいりますことをお約束いたします。

視聴者や読者に迎合する報道番組

2月14日はバレンタイン、この日ターミナルホテルで後援会主催の「春の集い」を開催、日頃ご無沙汰してきた方々と久しぶりに旧交を温めたところでした。

ところでその日の早朝、布団の中でテレビのリモコンを操作、映った画像はいつもの「朝ズバ」、今日も「みのもんた」氏が有頂天になって悲憤慷慨しておりました。その日はトリノオリンピックの真つ只中、各種競技における日本選手の惨敗ぶりを報告する一方、前日東京で行われたパラリンピックの結団式が

報告されました。その中で「みのもんた」は障害者の祭典であるパラリンピックに、殆どの報道機関がソッポを向けている現実に怒り心頭に発して、声高にパラリンピックの意義を強調しておりました。

これを見た私が寝ぼけ眼で憤慨したのは「朝ズバ」もまた他の報道番組と同様、それまで「パラリンピック」について殆ど詳細な報道がなかったにも拘わらず、突然、「我こそは弱者の味方」に変身しての立振舞に呆れ驚いた次第であります。

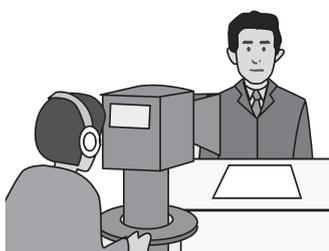
率直に言ってこれぞわが国の報道機関の「狡猾さ」の象徴を見た思いでした。

今日では、嘗ての「寵児」も「ライブドア」と共に化けの皮が剥がされ、これに関わった自民党の武部勤幹事長はじめ関係者は報道機関の恰好の餌食となっております。

しかし、考えてみて下さい、昨年の総選挙に際しては応援団とも思える程の「堀江特集」、更に「乗っ取り屋」に揺すられる「フジテレビ」の狼狽ぶりを、恰も一寸法師の鬼退治の如く後援していた態度を些かでも反省したでしょうか。

時代の寵児「堀江貴文」は見方を変えれば報道が作った虚像という面もあったのではないのでしょうか。

文責 天野進吾



小さな町、柚木町と土太夫町と上桶屋町

護国神社周辺の柚木と屢々間違えられて、迷惑した市民も少なくありませんが、正式な町名は柚木町です。しかし余りにも小さな町であるためにその存在を知らない市民も少なくありません、それは明治の昔から僅か十数戸の小さな町で現在も13世帯しかありません。

名前の由来は、嘗てこの町に大林寺があり、その境内に一本の柚の大木がありました。後にこの大林寺が安西4丁目に移転したためにこの柚の木だけが安西との境となる土手に残り、この地域の目印となつてその後、町名になつたのであります。また土太夫町と云う地名は珍しく、戸惑う方も多いと思いますが、もとよりこれは人名、実は宇式(牛木)土太夫という浅間神社の禰宜さんがここに住まいしたことからの名があると云われております。狹隘な面積ですが町の一角には桜守稲荷があり、ここに土太夫さんが合祀されています。

土太夫町の隣が上桶屋町です。この町も僅か42世帯のこじんまりした町内会です。大御所時代(1610年頃)、惣右衛門という桶職人が居住したのが始まりでその後、桶職人の町として発展しました。ところで「上」があれば「下」があるのが普通ですが、下桶屋町はありません。理由は昭和15年の大火の後、市役所は3つの小さな町、鍛冶町と宝町と

下桶屋町の3町をまとめて「昭和町」と命名したために、下桶屋町が本市の地図から消えてしまったのでした。

さて茶町通りに沿って、恰も肩を寄せ合うように柚木町、土太夫町、上桶屋町は小さな商店街を構成して今日に至りました。

処で数年前、この3町と隣の茶町1、2丁目を加えた5カ町が小規模町内会ゆえの欠点を補うために連帯する

一寸一言

先月のスコープでは安心の「安」の文字を皮肉つたところですが、この際、続けて「女偏」の漢字についても研究してみましよう。

近年、婦人団体がまずもって反省して書き換えた文字が婦人の「婦」、この字は箒を持った女を表し、掃除は女の仕事となり、爾来、女性団体と書き換えたのです。そこで沢山ある女偏の漢字からいくつか探してみますと、先ず「嫌」の字は女を兼ねると書き「きらう」を意味します。女性が年を取ると「姑」になります。更に熟語では「姑息」など余りいい言葉には使われません。「娘」は「良」と「女」で構成されておりますが、逆に考えますと「いい女」は娘の時だけになってしまいます、そんなこととはありませんね！妙なるかなの「妙」、意味は殊に優れている、美しい場合の表現の漢字ですが、残念ながら女には少ないと思われたのでしよう。

余り芳しい漢字でない「女偏」を

ところになり、合同で様々な行事を展開するところとなりました。

暫くして5町内会の合併話が台頭、真剣に対処する処となりました。処が合併後の町名問題が話題となった時、土太夫町から当然大きな町の名を採用すべきとの提案があり、合併話は一気に吹き飛んだこのことです。現在でも僅か65世帯の土太夫町が5カ町の中では最大の町内会であります。

以下羅列してみましよう。その最たるは「姦」ですが意味は道理に反すること、しかし一般的には別の趣旨を持つ文字になっております。「うちの嫁さん」の「嫁」も残念ながら女は道具としての認識からで、「嫁」も「婦」と同じ発想による漢字の誕生でしょう。「媚」も「嬌」も女の専売でしょう。即ち「媚」はこびるの意味であり「嬌」は艶かしい、ともに男の赤信号です。「嫉妬」という漢字はともに女偏です、そして夫々の漢字の意味は共に「ねたむ」、憎しみや妬みもまた女の性でしょう。

以上「女偏」について記述してまいりましたが、フェミニニストの私は、以前より男尊女卑を基調とするこれらの漢字の訂正を何故、平塚雷鳥はじめとする青鞥社の皆さんは問題にしてこなかったのか疑問でした。近年、身体障害者への思いやりとしての使用禁止用語は着実に私達の生活に浸透し定着して参りました。

さあ次は女性が怒る番です……待てよ、昨今の女性は先月も記述した通り既に漢字の意味合いを超越しているのではありませんか。

彩時記 引越しの季節

進学、就職、結婚、転勤…。春は人々が移動するシーズン。最近では引越会社のサービスが充実し、昔のように友人や親戚が総出で、わいわい引越す風景は見かけなくなりました。

転勤族など引越しに慣れている人はさておき、家のリフォーム、建て替えなどで久しぶりに引越しをされると、家にある不要品の多さに驚く人が多いようです。最近ではゴミの分別も細かくなっているので、不要品を仕分けするのにもかなり労力を必要とします。引越しを機に、家の荷物を見直して不要品を整理すれば、これからの暮らしで、不要品を増やさぬよう心がけることができるはず。無駄のないシンプルライフを実践すれば、新居のスペースも有効に使えます。

引越して、慣れ親しんだ家や町、家族、友人と離れるのは寂しいけれど、人生の節目に別れはつきもの。新生活に幸多かれと願って、見送る側も旅立つ側も笑顔で手を振りたいものです。

'06天野進吾フレンズカップゴルフ

春うららかな陽射しをあびて今年も「'06天野進吾フレンズカップゴルフ」を開催いたします。皆様とともに楽しい時間をすごせられますようにスタッフ一同企画致しております。

日時 平成18年3月27日(月)
会場 静岡カンントリー 島田コース